

日本山岳会 創立100周年企画について

平林 克敏

きたるべき2005年の日本山岳会創立100周年を目前にひかえ、昨年5月の臨時理事会で「100周年記念事業企画プロジェクト」設置が了承され、その後平林をリーダーに村井龍一副会長、西村政晃、今村千秋、高原三平の常任理事の5人がプロジェクトメンバーとなり半年間の協議の結果、このほど「100周年記念事業の運営組織と事業計画」案がまとまりました。この間、支部長会の協議を経て、今年1月の理事会において大筋の了承を得ましたので2月2日、臨時評議委員会を開き、意見を拝聴し、報告を行いました。ここに「創立100周年企画案」の概要を掲載します。



2002 年 (平成 14 年)
3 月号 (No. 682)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

ホームページ:
<http://www.jac.or.jp>

Eメール:
jac-info@jac.or.jp

目 次

創立100周年企画について…… 1	
報告	
自然保護(委)・「高尾の森づくり」の1年…… 4	
高所登山(委)・報告書頒布…… 5	
丹水会・第41回例会…… 5	
海外の山…… 6	
支部だより	
関西・ルーム開設…… 7	
岐阜・秋季懇親山行…… 7	
熊本・県境踏査達成…… 8	
青森・白神をブナの森へ…… 8	
Climbing&Medicine・7…… 9	
図書紹介…… 10	
「シルクロード探遊」「わが道はチベットに通ず」「いつか見たヒマラヤ」「垂直の星 吉尾弘遺稿集」	
会務報告…… 12	
新入会員・図書受入報告…… 12	
国際山岳年・フォーラム…… 13	
INFORMATION…… 14	
ルーム日誌…… 15	

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 …… 10~20時
水・金 …… 13~20時
第2、第4土曜日 …… 閉室
第1、第3、第5土曜日 …… 10~18時

■事業企画の指針

当会発足以来最も重要かつ意義ある記念事業となるため、以下の三つの理念と次の一〇〇年を念頭に据え策定することとした。

- 一、一〇〇年の伝統をいかに表現するか。
 - 二、将来に残る事業に重きを置く。(二過性のものでなく、後世に伝わり残るもの)
 - 三、会員の全員参加をモットーに推進する。(支部の事業への積極的参加、海外登山への参加など)
- さらに、次の一〇〇年に向けたモットーや理念、誇りや志となる明るく、しなやかな標語を考え、全会員の精神的高揚を図る。

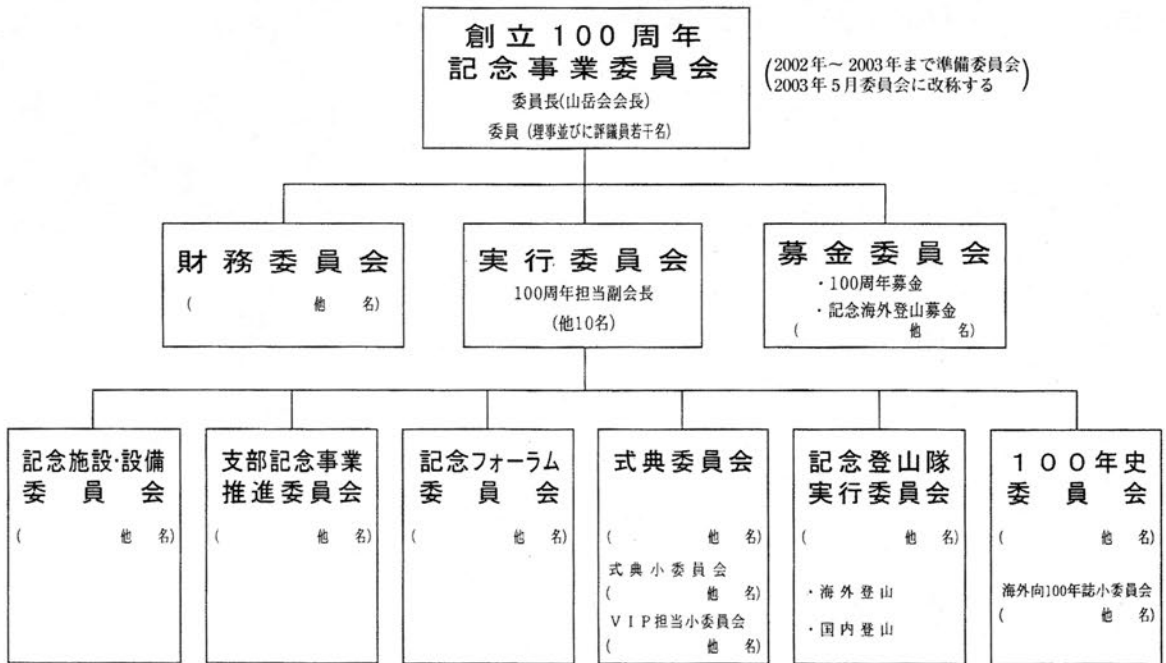
■事業の運営と組織

当会の理事会は会運営の日常業務を多く抱えているので、一〇〇周年記念事業に専念する必要性から「日本山岳会創立一〇〇周年記念事業委員会」並びに「同実行委員会」を設け実施することが妥当である。

「記念事業委員会」は会長が委員長となり、二名の常任委員と理事、評議員の中から委員を選任する他有識者を加え、事業計画の決定と所要資金の募金にあたる。

「実行委員会」は担当副会長を委員長とし、六つの基本事業(記念登山、式典、一〇〇年史、支部事業、記念施設、集会フォーラム、

100周年記念事業推進組織(案)



募金)を委員会組織で実施する。
一〇〇周年事業の規模に鑑み新たに発生するプロジェクトについては、これらの組織の傘下に各々小委員会を設け運営する。

■事業企画(プロジェクト)の概要

一、一〇〇年史編纂

●既に進行中の編纂事業は当会が後世に伝える最も重要なものと位置づけ、完成させる。

●日本の文化風土の中で、培われてきた、黎明期の登山から近代登山に至る登山思想の流れの中で、日本山岳会の果たしてきた役割を考慮に入れ、編纂の視点とする。

●外国人や宣教師以前に育まれようとしていた日本の近代登山の萌芽を考えると共に、欧州の列強から大幅に出遅れた日本人の登山や探検思想を、国体や国民性からとらえるなど、幅広い考察が必要となろう。

●英文誌に重点を置き、世界に発信できる小誌編纂はぜひ必要で

ある。

二、記念登山(海外並びに国内)

●従来型の大きな海外登山が必要か否か再検討が必要である。

●七〇〇級以上の未踏峰三〇四座程度を選定し、各支部(ブロック)中心で推進する方策を検討する。

●「日本人の足跡を訪ねて」戦前、戦後の日本人の登山と探検の足跡をメディアと共に追い、「自然環境、生活や文化」を当時と比較しながら、足跡をたどる大キャラバンを展開し、多くの会員の参加をおおぐ。

●国内登山は多くの支部会員の参加を求める意味から「日本列島中央大分水嶺の踏査」を科学委員会を中心に実施する。この分水嶺踏査については、第三回世界水フォーラム(二〇〇三年三月十六日〜二十三日)との関連を考慮し検討する。

三、式典・集会

●記念式典と晩餐会、原則として従来(八〇、九〇周年)の方法を踏襲することとし、招待する

来賓については検討が必要。

海外山岳会五〇一〇カ国。

国内関係先官庁、関係山岳団体、メディアなど。

●ブロック別記念式典

支部のブロック化を明確にし、今回を機に定着させる。

四、記念フォーラム

●記念式典、晩餐会に合わせ、同日に実施。

●テーマ案

一〇〇周年を考える。(世界の登山・探検と日本)

新しい世紀の人・自然・環境を考える。

●各支部でもそれぞれフォーラムを開催し、支部記念事業委員会が管掌する。

五、支部記念事業

●支部記念事業推進委員会を設置し、支部固有の事業の推進・支援の他、本部事業との整合性を検討しながら「全員参加」を念頭においた諸企画を創出する。

●支部またはブロックごとの式典、パーティー、フォーラムなど地域色豊かな企画を考える。

●登山実行委員会と連帯し、ブロック単位で海外の未踏峰登山を企画・立案する他、本部が実施する登山への参画も検討する。

全体として支部にウエイトの高い一〇〇周年事業を目指す。

六、記念施設・設備

●創立以来自然発生的に設立・拡充してきたルームなど諸施設を見直し、半世紀を目指したルーム環境のあり方を検討する。そのための投資を一〇〇周年事業として実施する。

●各支部ルームのあり方、助成方法を支部と共に考える(支部の規模・立地・歴史などを考慮)。

●この他、支部並びにブロック地区会員の便宜を考え、専用ヒュッテの創設を検討する。

七、新日本山岳誌編集

●商業出版物として、平成十一年より編集継続中。

■募金

●以上の事業を推進するためには莫大な資金を必要とする。よい事業のために潤沢な資金を必要とする。

とすることは当然であるが、時局を考えると、その多くの部分は会員および関係者のお力によることとなる。

●当面の会員募金目標を四〇〇〇万円。

一般からの寄付一億円。

●この意味からも募金委員会のメンバーは、歴代会長並びに副会長その他、選定に意を尽くす必要がある。

■その他継続審議として

設備委員会に検討を委ねる長期プロジェクト

●支部並びにブロック地区会員の便益を考え、専用ヒュッテを新設し、活用する。「高尾の森づくり」の中に専用ヒュッテ建設はこの一例である。

●一〇〇周年に残す最大の記念施設として「登山学校」を開設し、これからの社会ニーズに対応する青年を育成する。本件は文部科学省登山研修所の流用も含めて検討する。

◎最後にこの一〇〇周年事業企画が一〇〇周年の回顧に止まらず、

これからの新しい日本山岳会のあり方を考える諸施策に通じるものであることは論をまたないが、現在理事会の「長期計画策定プロジェクト」チームが検討中の「将来ビジョン」に反映させていきたいものと考えている。

◎山岳会の将来を見据え、新たな躍進をするためには、会員各位の新たな理解と物心両面からの協力支援が不可欠である。

ゴールデン・ウィーク・カトマンズ行(第10回)予告

ヒマラヤ
越えフライト
(第10回)

4/27(土)~5/5(日)9日間

チベット高原上空からカトマンズへ
ヒマラヤ越えが魅力の特別運行便
ボーイング757、機窓からの大パノラマ

アルパイン・ツアー・サービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F TEL.03-3503-1911
大阪/TEL.06-6444-3033 名古屋/TEL.052-581-3211 福岡/TEL.092-715-1557

報告

REPORT
3月

自然保護委員会

「高尾の森づくり」の一年

「高尾の森づくりの会」が発足して一年が過ぎた。当初は、三十人も集まれば上々だった参加者も、月を追うごとに輪が広がり、いま



裏高尾・小下沢で作業に汗を流す

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

や、毎月の作業日には六、七十人が裏高尾の小下沢国有林に集合する。昨年一年間に作業に参加した人たちは延べ約千人、登録会員数は百人を超えた。通常、この種団体における会員の行事参加率は多くて三〇%程度だそうだから、いささか驚きだ。最近の自然保護やボランティアに対する世の中の関心の高さと健康志向に加え、高尾という交通至便の地の利が味方して回転し始めた結果であろうか。われわれのコンセプトに賛同し継続的な活動を望む人たちは、JACの会員に限らず広く受け入れているのにもいい雰囲気をかもし出している一因である。一日の作業を終えて、自然の只中でトン汁をすすり夏場は缶ビールで談笑するひと時がなんとも楽しく、これがあるからやめられないという意見

が圧倒的である。

ここで、なぜ、いま日本山岳会が森林ボランティアなのかについて考えてみたい。

日本の林業経営が危機に瀕して久しい。わが国では、戦後の復興需要と高度成長のもたらした木材の不足を解消するため、自然林を次々と伐採しその跡に成長の早いスギやヒノキの針葉樹を植林する拡大造林計画と呼ばれる林業政策が全国的に行われた。

一方、国産材だけではまかないきれない木材需要を補うため輸入材の完全自由化が実施されたのであるが、安価な輸入木材の大量流入の影響は深刻で、大半の山がコスト割れに追い込まれていった。

いまや手を入れれば入れるほど赤字が嵩むため、日本の森林の八割が手入れもされないまま放置されている。スギ、ヒノキの人工林は、成長度合いに合わせて、下草刈、除間伐、つるきり、枝打ちを計画的に行うことによつて商品価値のある材に育つ。放置された森は、材としての価値がなくなるばかりでなく、地味が痩せて、ただでさえ問題視されている保水力がさらに低下し、出水や山崩れなどの災

害の原因にもつながる。ピーク時には全国で五十万人を数えた林業従事者はいまや八万人を割り、国有林野事業関係の職員数はなんと八万人が一万人になってしまったのだという。

こんな状況の中で昨年制定された森林・林業基本法は、日本の林野行政を根底から見直して、生産林中心の考え方から、森林のもつ多面的機能に軸足を移したものに生まれ変わった。環境への配慮と併せてボランティアに対する期待も一段と高まっている。いま全国で六万人を超える森林ボランティアが活躍していると言われるが、われわれの会の特徴は、対象となるフィールドが山地であることは当然として、その活動が単なる作業奉仕に終わることなく、自然環境の復元につながるものでなければいけない、と考えていることである。

森づくりは百年の仕事だ。継続は力なり。今後も、効率第二、「安全で楽しく」をモットーに続けていきたいと思っている。

(山川 陽二)

*四月十四日(日)は第二回植樹祭です。広葉樹の苗木千五百本を用意

して参加者に植樹を楽しんでもらう計画です。なおホームページを開設しました。アドレスは
http://members.aol.com/JAC
takeonomori

高所登山研究委員会

報告書「8000m峰 登頂者は語る」を頒布

ヒマラヤでの高所登山がこの十年ほどの間に急速にポピュラーなものになってきました。公募登山の発達や現地での受け入れ態勢の整備もあり、現在では初心者や中年でも気軽にヒマラヤの八〇〇〇峰に出かけるようになっています。

そこで、より合理的で安全性の高い高所登山のためにと一九九〇年以降に八〇〇〇峰に登頂した人を対象にアンケート調査を行います。



報告書をまとめました。これから高所登山を目指す初心者にとって役立つばかりでなく、エキスパート登山家により高度な登山を目指していく時のヒントになればと思っております。

報告書「8000m峰登頂者は語る」(日本人8000m峰登頂者へのアンケート調査)―体力、高所順応、高所技術に関して―シンポジウム高所登山の魅力とは何か。二十一世紀に向けて―を一冊二千元で販売しております。購入希望者は日本山岳会事務局までご連絡ください。(坂井広志)

丹水会

第四十一回例会報告

紅葉が最盛期の二〇〇一年十一月二十二日夕刻、再会を楽しみにしていた会員が西丹沢の世附きこり村キャンプセンターに集った。世代・性別を超えた会員同士の懇談、季節を楽しむ山歩き、そして多方面で活躍する講師による話題提供がこの会の最大の特徴。

テロ事件が世をにぎわしている今回は、トルコやパキスタンの登山、カプール大学留学の経験もある、一昨年『アフガンの花嫁』を上梓された泉久恵さんに、アフガン社会について語っていただいた。アフガニスタン語る基礎となる民族関係および過去の戦禍、地理・気候を整理した後、イスラーム社会について、とりわけ女性の社会的地位、生活について実体験をもとに話が展開された。時節柄多くの関心を集め、登山、食生活から婚姻関係、宗教問題まで多彩な質疑応答により内容豊富な講演会となった。

到着、思わずラマダン明けとの声があがった。

九時過ぎにはログハウスで床につき、翌朝は幹事の機転で朝食前に恒例の記念撮影を済ませて食後はすぐに出発となる。色鮮やかな渓谷の林道を歩き、浅瀬のつり橋をわたり、全員で世附峠へと向かった。峠からは三国山越しに富士を振り返りつつ、不老山頂上に到着。頂上にて不老長寿の薬湯を楽しむ、駿河小山駅および番ヶ平から山市場へ下山する二組に別れ、山頂を後にした。参加者四十八名。

(狩野芳郎)

6,000m以上の1,215峰を全て所収 世界初の精密登山地図 完成!!

宮森常雄 著 (ヒンズークシュ・カラコルム研究会)

カラコルム・ヒンズークシュ登山地図
Mountaineering Maps of the KARAKORUM & HINDU-KUSH
by Tsuneo Miyamori
B全判地図13葉

(付)カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究 (宮森常雄 雁部貞夫 共著)

A4変型判・上製美装ケース入 385ページ

◎好評発売中!! 定価(本体33,000円+税)

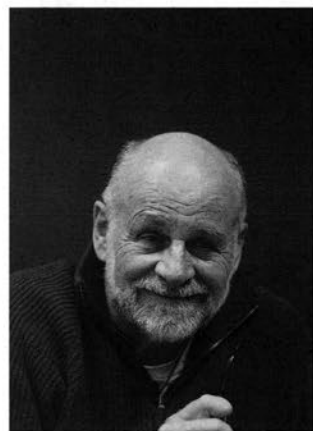
国内外の多くの登山家・探検家による最新情報を刻み込んだ世界で最も詳しい登山地図がついに完成! 全て経緯度を位置付け、既登峰・未登峰を明示。氷河地帯の知りうる限りの情報も満載。別冊山岳研究では貴重なパノラマ写真に高度と山名を添えて掲載。現地言語による地名山名研究と併せてヒマラヤ全域の知識を提供する。

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2
Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665
URL http://www.nakanishiya.co.jp/

海外の山 他人のテント

江本 嘉伸



クルト・ディームベルガー
撮影・萩原浩司

オーストリアの登山家、カメラマン、クルト・ディームベルガーが来日した。あのヘルマン・ブルととも一九五七年にブロードピークを、スイス隊に参加する形で六〇年にダウラギリを、と、二つの八千峰に初登頂した唯一の男である。今回は日本山岳協会が二月二十二日に企画した「国際山岳年記念 クルト・ディームベルガー講演と映画の会」のためにやってきた。

講演を通じて一九五七年から八六年まで長いつきあいになるK2についての思いの強さがうかがえた。パイトナーであった英国女性、ジュリー・チュリスとはこの山をテーマに三本の映画をつくっているが、その最後の映画を、こう言いながら紹介した。

「K2は誰にも薦めるわけにはいかない。エヴェレストは登頂者の二十九人に一人が頂上から下山中に死ぬ

が、K2は七人に一人が死ぬ」

この山をそこまで恐怖する理由が、画面にナレーションとともに流れた。著名なクライマーが次々に力尽き、ついに十三人もの犠牲を出した一九八六年のいわゆる「嵐の夏」のK2。その一部始終は、生き残ったひとりであるディームベルガーがチュリスとの「共著」のかたちで一九九〇年に書いた「The Endless Knot」(邦訳は「K2 嵐の夏」として二〇〇〇年出版)に詳しいのでここではふ

れない。雪崩、滑落など各国隊の遭難が続いたあと、七月末から八月にかけて、さらに恐ろしいドラマが待ち構えていた。その中に高所で他人のテントを当てにしたらどうなるか、という深刻なテーマが浮かび上がる。

K2にはこの時韓国隊とオーストリア隊があり、オーストリア隊は、固定ロープを難所のボトルネックに張ることなどと引き換えに韓国隊の

テントを使わせてくれ、と申し入れていたらしい。ディームベルガーとチュリスが八〇五〇呎の「肩」の韓国テントの近くに第四キャンプを張り、英国のアラン・ラウスらとアタック体制にはいった八月二日、オーストリア隊の三人が頂上へ向かったが、彼らには自分たちのテントがなかった。八四〇〇呎で引き返してきたオーストリア人たちにディームベルガーたちはショックを受ける。結局、三人は韓国隊テントに二人、アラン・ラウスのテントに一人、と強引にもぐりこみ、全員がぎゅうづめのまま眠れぬ一夜を過ごすことになる。

以後、登頂とその直後のチュリスの滑落と生還、襲いかかる嵐の中、狭いテントでクライマーたちが次々と息絶えてゆく情景はいたましい。高所で他人のテントをあてにしたことも悲劇の原因のひとつ、とディームベルガーは強調するのである。

状況は違うが、他人のテントを当てるに交渉は、時に行われているらしい。昨春秋、チョーオユーの第三キャンプで日本人ガイドの安村淳は、七六〇〇呎のC3で自分のテントに何者かが入りこみ、貴重な食糧袋が外に引き出され、カラスの餌になっ

ていているのに呆然とした。やがて公募隊を率いることで知られるラッセル・ブライスは下りてきて、彼らが使った、と判明、安村は激怒する。

ラッセル・ブライスの釈明によると、安村隊のサードのラクパ・テンジン(彼は何度もうラッセル隊でも仕事をしていた)と話し、上部のルートにザイルを固定するかわり、安村隊のテントを使わせてもらうことにした、という。「しかし、私たちは間違った。シェルパのひとりが酸素ボンベと、ガスの入ったザックを食糧入りとは知らず外へ出してしまった」と、後に筆者にブライスはメールで説明している。

安村に説明しなかったラクパ・テンジンは「ベリーソリー」を繰り返したが、高所キャンプに上げた食糧が当てにできない、となつたら大変だ。ブライスたちは平謝りし、かわりの食糧を三時間以内に運び上げると説明したが、安村はおさまらない。「どうしても必要であればリーダーである私に直接話すべきだ」と、主張し、謝罪を受けつけなかった。

幸い、安村はクライアントとともに無事登頂を果たし、下山した。ブライスは「どうか小さな誤りであったことをわかってほしい」と、伝えているが、他人のテントを使う時のルール、簡単ではない。

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況を
レポートします。

関西支部

ルーム開設

十一月八日(木)十六時三十分、七十八名の出席を得て、関西支部ルーム開設の記念式典が始まった。大塚会長の出席、祝辞を得て大変に盛り上がった式典になった。

関西支部は、かねてから自前のルームを持たいと資金積立を行っていたが、支部図書の整理を進める過程で、その利用を図るためにもルームの必要性が叫ばれてきた。また、支部員の加齢に加えて、支部活性化をいかにすべきか、JACのよき伝統をどう伝えるか、クラブライフのあるべき姿は、などなど、時代の変化は激しく、山

岳界の流れも平穩無事とはいかない。どうしたらいいか。しばし力不足で手をこまねいていたが、この際一歩前進するため、ルームを持つことで課題解決の手段と考えようと、ワーキング・グループが発足した。

物件については経済性、利便性が第一に要求される。難航したが、ラッキーなことに大阪府山岳連盟より、その移転先の隣を紹介され、ワーキング・グループの活躍もあり、支部委員全員の合意を得てルーム獲得が実現した。

場所は大阪駅からやや離れた南東の東成区大今里の大阪セルロイド会館である。昭和六年建設の三階建てで、スパニッシュ瓦や半円形のアーチ窓など、昭和初期の面影を残す頑健な建物で掘り出し物であった。時あたかも国の文化審議会が国の登録文化財にするように答申し、登録された。まさしくよき場所を手に入れたことになる。ルームの壁には三枚の写真が掲げられている。その一は「アイガ―東山稜登攀」図で、YUKO MAKIの署名入りである。その二は「マナスル第二キャンプ、ナイケコル」。その三は「チョモラ

ンマ三国登山」である。図らずも「近代アルピニズム」「ヒマラヤ巨峰時代」「チベット側解禁、交差登山」と、日本山岳会の象徴的写真が飾られている。小さなルームにある写真は、静かにわれわれ支部員を眺め、これからの活動を期待していることであろう。関西支部は変わろうとしているのである。

支部所有の図書の一部を開架一覽しています。閲覧かたがた、団欒、打ち合わせにせいせいご利用いただきたく、平日夕刻は委員当番が詰めています。ご来訪くださるようお願いします。(新井 浩)

岐阜支部

秋季懇親山行・銀杏峰

岐阜支部では春秋二回、一泊の懇親山行を実施している。平成十三年の秋は十月十三日、大野城下の宿で懇親会、翌十四日、銀杏峰へ登った。

宿を出発した時間が遅かったため、銀杏峰の山頂部から北へ垂下している尾根の先端にある登山口の駐車場は、先に登っている人たちの車で、ほぼ満杯だった。各人が林道脇にどうにか駐車スペース



眺望絶佳の山頂で

を見つけ、総勢二十九名全員がそろったことを確認のうえ、登山口の標識にしたがって出発。地元山岳会によって開発されたというこの登山道、尾根が細いため、道をジグザグにつけることができない。昔銀を産出した鉱山の跡といわれている石垣が残っているとこるだけ、わずかに平坦があるのみで、山頂部の北端に登りつくまでほとんど急登の連続。下からしきりにもっとペースを落とせ、と声がかかる。

登り口付近では、わずかに色づいていた程度だった紅葉も、登るにつれてナナカマドやウルシの赤色、ブナの黄色などが増え、山肌が美しくなった。振り返れば木々の間より、大野盆地とそれを取り囲む経ヶ岳や報恩寺山など、眺望

が次第に開けてくる。喘登を重ねて山頂部の一角にたどり着けば、一挙に急登から開放され、東の端にある三角点までは広々とした台地の中、平坦な道となる。秋晴れの青い空、紅葉した灌木の平原、そしてさえぎるものない大展望に歓声をあげ、秋にちなんだ歌を口ずさみながら快適な山上散歩。

さして広くもない頂上は案の定先客たちに占拠され、三十人近い私たちのパーティーが座り込む余地はなかったから、立ったままで北から東にかけて白山、荒島岳、槍ヶ岳、穂高岳、乗鞍岳、御岳などの展望を楽しんだ。少し戻って笹原の中に座り込み、今度は南の方角に、能郷白山を盟主とする奥美濃の山々や、はるか遠くに伊吹山までの大展望を満喫し、昼食。秋晴れに恵まれ、山頂から二十万分之一の地勢図四枚にまたがる超豪華な展望を楽しむことができ、この山に大勢の登山者が訪れる理由が納得できた。(村田 正春)

熊本支部

熊本県境踏査達成祝賀会

支部設立四十五周年記念事業と

して、平成十年にスタートした熊本県境踏査が、昨年の十二月九日最後の六十八区間目の矢筈岳から境川を下り、八代海に到達してフイナレーを迎え、ちょうど支部設立四十五周年目の最終月に完了した。そこで平成十四年の新年会は、県境踏査達成の祝賀会もあわせて開催することになり、来賓として大塚会長に出席をお願いした。

祝賀会は熊本市の熊本交通センターホテルに二十三名が出席して一月十九日、午後六時から開催された。はじめに工藤支部長が立ち、大塚会長へ歓迎の言葉を述べた後、大塚会長は「娘と孫が熊本にいます」と挨拶し、会場を大いに沸かせた。さらに「県境踏査は支部の活性化に大いに貢献した。山岳

会の百年にわたる伝統を踏まえ、山の文化を組み込んだクラブ活動をお願いしたい。百周年のプロジェクトは地方の支部も積極的に参加して、さすが熊本支部だと言われるようなプランを企画してほしい」と述べた。

続いて、今回の県境踏査の計画から実施に当たって中心的な役割を果たした本田前支部長が、県境踏査の概要を報告し、神谷副支部長の発声で乾杯、祝宴に移った。

会長が出席されているとあって、会場は例年の新年会より華やいだ雰囲気になっていった。司会者の「今日は親しく歓談できるまたとない機会です」の言葉に、会長を囲んで酒を酌み交わし、賑やかに談笑する列が次から次へと続き、大いに盛り上がった。当支部のようには中央から遠く離れた支部では、ともすると本部との係わり合いがないままの会員も多く、この日初めて会長に接したという会員も少なくなかった。

大塚会長は会長就任以来、精力的に地方支部を回って会の活性化に取り組んでおられるが、このように地方支部会員の意見や要望を直接聞いていただくことは地方支

部の活性化にもつながること、支部としても大いに歓迎したい。

会長への自己紹介もかねて、出席者の新年の抱負がユーモアたっぷりに披露され、最後に西沢元支部長が、四十六年前に大塚会長がマナスル登山の講演会で来熊され、その講演を聞きに行ったことなどを披露して、会のますますの発展を祈念し、万歳三唱でお開きとなった。(田上 敏行)

青森支部

白神のスギ植林地を ブナの森へ

当支部で実施している、白神山地世界遺産地域に隣接する放置されているスギ植林地を、ブナの森に戻す事業も今年で四年目になります。昨年は、青森大学大学院岡島成行教室の環境教育プログラム開発にも協力し、延べ三十八名の中学生の参加を受け入れ、予想をはるかに超える大きな成果を得ました。試行錯誤の連続だった作業も、参加者の工夫と根気強い努力で、少しずつ成果と方向性が見えてきました。緑と水の森林基金からの資金援助もあり、作業用具も

Climbing & Medicine ・ 7

国際山岳連盟医療委員会 2001年
カトマンズ高所登山医学シンポジウムから

雪崩について

中島 道郎

昨年(2001年)の11月2～3日、カトマンズでUIAA-MEDCOM (国際山岳連盟医療委員会)の年次総会があり、その機会にネパールの医師たちの希望で、高所医学のシンポジウムが開催されました。席上、この会の委員長のデューラー (B.Durrer) 博士が雪崩と低体温症の講義をしました。参考になると思うので紹介します。ちなみに博士はスイス・ユングフラウの麓、インターブルンネンの開業医ですが、診療所の庭はヘリポートになっているという本格的な山岳救助医です。

スイスでは1992年から98年に雪崩に遭った人の数はスキーヤー、スノーボーダー、家屋内、車内の人合わせて638名、そのうち15分以内に救出された人の生存率は92%、助からなかった8%の全員が既に致命的な障害を受けていたとのこと。換言すれば、雪崩に埋まっても15分以内に掘り出されたら全員助かる、という話でした。ところが15分を過ぎたら急激に生存率は低下し、35分以内には30%に、130分になるとわずか3%しか生き残れないそうです。その場合、生死を分かつのは、鼻・口の前に空間が少しでも残されているか否かだそうです。その意

味で、家屋内や車内に閉じ込められた場合の生存率は高くなり、オーストリアでは崩壊家屋内から13日目に救出された例があるそうです。

日本ではスキーヤーが雪崩に巻き込まれる事件は滅多にありませんが、どこでも雪崩れる場所はほとんど決まっていますから、何よりもまずそういうところに滑り込まないことです。このところ、日本からも本場でアルプススキーツアーを楽しむ人たちが増えているようですが、その際決して忘れてならないことは、雪崩は全く何の前触れもなく始まり、しかも上から落ちてくるものではなく、自分が作るものであるという認識、決して独りで行動せず必ず複数で行動すること、およびうっかり危険標識を見落として危険地帯に紛れ込まないことなどです。

万一雪崩に巻き込まれてしまった場合は、素早くスキーを外し、クロールの要領で雪の中を泳ぐ。大きなザックを背負っていたため雪崩に埋まらずに助かった経験者の話から、ザックに空気を満たしたビニール袋を入れる案もあります。

仲間が巻き込まれたら、何はともあれ15分以内に掘り出す。でも徒手空拳ではなかなか困難です。何度か模擬訓練をしておく必要があります。雪崩ビーコンは誰もが不慣れたためほとんど役に立っていないそうです。そういう装置さえあればよい、というのは幻想に過ぎないという好例です。雪崩はいつどこで発生するか全く予想できない、という前提で、普段からの心構えと訓練が重要なわけですが、何よりも危ないとわかっているところには決して近づかないことが肝心です。

充実させることができました。また今年は、地元の農業高校もブナの育苗などで協力してくれることになっていきます。

今年の実施日は、六月七～九日、九月十四～十六日です。作業現場までの交通が不便なため、参加希望者は事前に左記へご連絡ください。計画の詳細と交通案内をいたします。

(村田 孝嗣)

連絡先 村田孝嗣(〒036-1833 青森県弘前市浜の町東五三・一九 TEL & Fax 〇一七二・三三・四六八七 メールアドレス danburi@infoamori.ne.jp

あなたの「おもい」や「感性」を「カタチ」にしませんか。

—編集・制作のプロ(JAC会員)が直接お手伝いします—

山行記録集をはじめ、紀行・随筆・歌集・句集・詩集・写真集・記念誌などを、お望みの形や様式でつくれます。まずは、お気軽にご相談ください。

参考価格				費用の目安です(消費税別)			
・四六判(天地188×左右127mm)並製本	200冊	500冊	1000冊	・写真集 変型判(天地200×左右220mm)並製本	200冊	500冊	1000冊
128ページ	68万円	78万円	87万円	56ページ	108万円	149万円	186万円

詳しい資料をお送りします。お問い合わせ・お申し込みは—

Tel.075-212-1320 Fax.075-212-1321
E-mail work@skyblue.ocn.ne.jp

編集プロダクション(竹内謙之 会員No.10025)

TAKEUCHI 制作室
GRAPHIC ARTS & EDITORIAL

〒904-0982 長野県中野市御幸町1-1-1 TEL.0265-53-1711 FAX.0265-53-1712

図書紹介



イラスト 蜂谷益雄

松本健夫・著

『シルクロード探遊』

絹の道、悠久のロマンと魅力にあふれる古代の東西交易の路は夢を育む。本書では蘭州を起点とした河西回廊・タリム盆地を囲む中国領西域北道(天山北路と南路)、西域南道の中央アジアに向かうオアシスを伝うシルクロードを取り上げている。

本文は序―いざ西域へ、に始まり、各紀行文が一六章を占める。あとがきにかえて、西域へのロマン―でルーツを中央アジアとする日本人は郷愁を持っているのかもしれない、と結んでいる。巻頭にカラー写真八ページ、内容は多岐にわたり、巻末には参考図書六

―が紹介されて、質の高い案内書にもなっている。シルクロードに興味を持つ人、既にこの地域を旅された人にもお奨めしたい一冊である。なお著者の学術探検書『遙かなり秘境可西里』(九九年発行は『山』二〇〇〇年三月(六五八号)に図書紹介されている。

(三沢 一三)

二〇〇一年九月 葦書房発行
三五七ページ 三千四百円

サブリエ・テンバーケン・著

平井吉夫・訳

『わが道はチベットに通ず』

―盲目のドイツ人女子学生とラサの子供たち―

著者は先天的な網膜退化で十二歳で完全に失明したが、晴眼者と同じように育てられ、ボンの大学で中央アジア学を専攻する。

一九九七年に単身ラサに行き、

盲目は前世の悪の報いとされ何の支援もされない子供たちの現実を知り、チベットで初めての盲学校を開くことを決意。孤児院の敷地内に教室と寄宿舎を確保し、自分で開発したチベット語の点字を教えるが、子供たちの知識を吸収する力がすごい。ドイツ政府の援助

も取り付けて順調にいくかに見えるが、孤児院長の資金横領や助成金受け入れ団体の無理解など、次々に難題が押し寄せる。しかし行動的な著者はよき協力者を得て、着実に成果をあげる。

町を歩き村々を訪ねるときの風景の描写もまた素晴らしい。目が見えなくなる前に「色のバリエーション」を吸収し、記憶にためこんでいるため、「想像力を駆使してそのまますべてで精密な映像に置き換える」ことができるからだ。本書はいわゆる山書ではないが、登山者にもなじみの国の、隠された現実を知ることが、ここを訪れる際の参考になろう。(泉 久恵)

二〇〇一年十月 風雲舎発行
三〇二ページ 千八百円

根深誠・著

『いつか見たヒマラヤ』

遥かなるあこがれの地ヒマラヤ、そのヒマラヤへ、登山にそして取材にと三十年近くにわたって訪れている著者が綴る旅の足跡である。三十年という年月は、ヒマラヤでさえもその変化は否めない。最初の項に書かれているルンビニ紀行中でもリキシャの旅は、もはや望

んでも不可能な旅かもしれない。リキシャを引く少年との心温まるふれあい印象的である。

チベット・シッキム・ネパール・パキスタンから中国へとヒマラヤ周辺をめぐる旅の数々は、辺境の地の自然とそこに暮らす人々の姿、旅で出会った人々との交流、カトマンズのストリート・チルドレンの話や、ヒマラヤ登山に関わってきたシエルパにも話は及ぶ。

そして最後に載せてある河口慧海の書簡が興味深い。著者の旅に直接的な関わりはないと断っているが、ネパールを最初に訪れた日本人、四回ネパールを訪れており、その三回目の一九〇五年に宰相チヤンドラ・シャムセル・ラナに宛てたネパールの近代化に関する提言の英文書簡である。これが発見されたのは一九六〇年、しかし発見から三十三年後の九三年に二つの雑誌に掲載され、一部話題にはあがったもののほとんど反響はなかったという。

約百年前の河口慧海の提言を読み、ネパールの現在を考えると、著者が慧海の遺徳を顕彰したいがため敢えて収録したという意図は自ずから伝わると思う。

(渡邊 玉枝)

二〇〇一年十一月 実業之日本
社発行 二八五ページ 千八百
円日本勤労者山岳連盟・編
『垂直の星 吉尾弘遺稿集』

「僕は病院のベッドの上でだけは死にたくないと思っている。……死ぬなら文明という衣を脱ぎたい。どんなに哀れに見えても野性の動物に近い死にざまでありたい。僕が危険な場所でトップを受け持つのは、動物の行動、そのリーダーの姿勢に見られる野性の掟に近いかもしれない」と本文「小西政継さんの影」の中で吉尾弘氏は記している。そしてさらに「僕はとくにトップをきる小西さんの姿勢に惚れ込んでいた。雑談しているうちに、なにかのはずみで話がリーダー論に及んだ。小西さんは(低温下で長時間フットホールドに加重していると血行がさまたげられて足が凍傷になる。それでもリーダーは行動する。それがリーダーの責任だと思う)という意味のことをいわれた。……ルピコン河を渡ってしまったパーティーのトップが負わなければならぬ

責任への自覚。それはアイデンティティの問題であり、行動に対する価値観はその内なるものである。こういう点は明文化されたルールの上に成り立つスポーツとは異質である。種の保存の法則が根底にある本能とも違う。人間を人間たらしめているなにか、言いかえれば、なにかを創造しようとする本能に近いものではないかと考える。この域に到達しなければ本物でないなどというつもりはない。

たまたま厳しい条件下で行動を強いられたときどうするか、ということである。運と偶然に支配され、生死が決定されるというのでは、あまりにもさみしい。たとえ登攀中に死を迎えるようなことになつたとしても創造の本能、それを内在した自己を一瞬でも主張した結果でありたい。もちろん、そういう自己主張のそこにはそれなりの覚悟がなければならぬ。小西さんの考え方と僕のそれには驚くほど似たところがあったのである。

……」
一九九二年に自らの運命を暗示するかのよう、この会話を交わした小西政継氏は一九九六年、ネパールヒマラヤのマナスル登頂後、

自分の命綱といえるシェルパを傷つけた仲間に貸し与え、ひとりぼ

つちで暴風雪の中に消え、吉尾弘氏は二〇〇〇年三月、谷川岳一ノ倉沢滝沢リッジをザイルのトップ

として登攀中、壮絶な最期を遂げられた。享年六十二歳、まさに日本登山界の巨星あいついで墜つた観があるが、本書は日本屈指の名クライマーであり、組織者兼指導者であつた吉尾弘氏の清冽な魂の記録として、全ての山を愛する人々に必ず大きな感動と、自己の登山に対する姿勢に強烈なインパクトを与える名著として推奨したい。

古川純一氏の「大彗星」と題する序文で始まる本書は五部にまとめられている。

第一部は「登ってきた道」初めの山からRCCⅡの創立、その中枢としての活躍。東京登山リーダー部長から日本登山副会長、同全国連盟理事長、同会長などを歴任する中で様々な思考や交流が珠玉の文章にまとめられ、知られざる日本戦後登山史を識るうえでの重要な手がかりとなる。中でも尖鋭と前衛を目指すRCCⅡのアルピニズムを登山という巨大組織の中で生かし続けた行跡は見事と

いう他はない。第二部は「壁から壁へ」吉尾弘氏の国内での登攀記録が、第三部は「嵐のひと夏」ドリユの北壁をはじめとする数多くの海外登攀。第四部には対談集、富士真奈美、檜谷清氏らとの対談、RCCⅡ35年―その軌跡と功罪など。第五部は「素顔の吉尾弘」として夫人、家族の氏への想いが。最後に吉尾弘主要年譜、登山歴。それに吉尾弘遺稿集編集委員会委員長西本武志氏の後書きがある。

(松本 龍雄)

二〇〇一年九月 本の泉社発行
四〇六ページ 二千百九十円

登るたびに好きになる!

おかげさまで10周年!!

2002年度・総合カタログが完成!!

国内・海外の山、自然観察、
秘境の旅が満載!新コース
多数設定!

ぜひカタログ(無料)を下記までご請求ください。

お問い合わせ
お申し込みは

アミューズトラベル

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-22-2 新宿サンエビルB1
TEL 03(5325)1256 FAX 03(5325)1258
大 阪 06(6456)3366 名古屋 052(588)5617
天 橋 082(502)2525 福岡 092(735)8855

会務報告

一月理事会

日時 平成十四年一月九日(木)

十八時三十分～二十一時三十分

場所 日本山岳会会議室

「出席者」 大塚会長、芳賀、長尾、村井各副会長、西村、今村、坂井、高原、朴元、高遠、宮下、鈴木、黒川、大野、中村、河西、松原、鳥居、小川各理事、古市、内田各監事、平林、宇田川各常任評議員
「委任」 藤本理事、宮崎、鰐坂各常任評議員

◎議事に先立ち大塚会長より「今年には百周年記念事業に向けて本格的に動く年。皆さんの活発な行動を期待する」との挨拶があった。

【審議事項】

一、東カラコルム踏査・パドマナブ登山計画について (坂井)

九月理事会承認の表記の具体的な進め方(別添え資料)として①実行委員会(十五人程度)を設置して登山隊(隊長予定者・坂井ほか五名)を置く。②隊員選考は坂井が行う(申請期日が一月末までと時間的猶予がない)。③IMF

(インド登山財団)への登山料四千九百ドルの立て替え支払い。

計画概要は次の通り。

●組織は当会とインド・ボンベイ山岳会との合同で実施(計画推進者で合同隊総隊長のインド側リーダーのハリシュ・カパディア氏は元IMF副会長。ボンベイ山岳会会長でヒマラヤンジャーナル編集長)。隊員は両国六名、計十二名。

●踏査ルートはシャイヨーク谷からカラコルム峠、イタリアンパス、テラムシエール氷原、シアチエン氷河をたどる。登山・踏査記録の極めて少ない地域。登山対象のパドマナム(七〇三〇m)は未登峰。

●実施期間は二〇〇二年五月九日より七月八日まで。

●国際山岳年および日印国交樹立五十周年の行事としたい。(承認)
二、「二〇〇二国際山岳年」の年間計画について (高遠)

一月七日、国際山岳年日本委員会が開催され、現時点で予定されている年間主要事業が、別添資料により報告された。当会の候補事業は三月末までに提出してもらいたい。(承認)

三、創立百周年記念事業の企画について(その2) (平林)

国際山岳年日本委員会主催・フォーラム

「我ら皆、山の民—私たちは、
なぜ山にひかれるのか」

—日本の山をめぐる文化的挑戦—

日 時 4月7日10時～17時
場 所 東京・青山 東京ウィメンズ・プラ
ザ・ホール

参加費 1,000円 (資料代など)

*参加は当日受け付け順とする

- 第1部 開会スピーチ 田部井淳子
(国際山岳年日本委員会委員長)

講演：小泉武栄「美しく、そして世界的
にも特異な日本の山」

- 第2部 スライドとトーク＝多田多恵子
「日本の山の花、植物の神秘」
- 第3部 立体フォーラム「登山の現場か
ら日本の山を語る」＝山野井泰史、
服部文祥、石川直樹、他がスライ
ドと映像で報告
- 問合せ 国際山岳年日本委員会事務局長
江本嘉伸 Tel: 03-3357-7704
Fax: 03-3359-7907

別紙「創立百周年記念企画プロ
ジェクト」により、百周年記念事
業の運営組織と事業計画概要につ
いて「百周年記念事業への取り組
み」で提案があった。(承認)

【報告事項】

一、「K2(南南東リブ)登山隊1
996報告書」に関する裁判の高
裁判決の会報「山」への謝罪文掲
載について(その2) (西村)

掲載する「謝罪文」に、経緯等
を併記するかどうかは、会報担当
理事の判断に委ねたい(別添資料
一、二)。出席者全員から活発な討
議がされ多くの意見具申があった。
これを踏まえ、再度会長、副会長

を含めた常務理事会(一月十一日
開催予定)で話し合い、会報担当
理事への参考とすることとした。
二、資料等使用、名義後援の許可
(西村)

京都大学総合博物館より、平成
十三年十二月八日～十四年三月二
十八日開催の「今西錦司特別企画
展」で毎日新聞社刊「マナスル1
952、3」の写真を複写使用。

三、各委員会報告
総務委員会・高原

①二一一号室の休日(土、日)利
用は検討中。その他、一〇四号室
に置いてある資料の整理依頼。

②支部事務局担当者会議を二月二

十三(二十四日、グリーンホテル
および当会議室で開催する。つい
ては出席依頼があった。
②会員名簿二〇〇一で、コンピュ
ーターミスによる印字誤記が判明し
た。訂正を会報一月号に記載。

財務委員会・村井副会長

①四月より十二月末まで累計の会
計報告。十五名の入会があれば目
標通り。

②会費未納者リストが配布され納
入催促依頼があった。

会報編集委員会・今村

『山』一月号の巻頭は科学委員会
主催のシンポジウム「中高年の高
所登山及びトレッキングを科学的
に考える」の報告。

青年部委員会・松原

委員会メンバーの朱宮さん他一
名が正月登山で消息不明となつた
が、五日連絡がつき七日無事ヘリ
で救助された。心配をかけた旨挨拶
があり、反省して今後につなげ
たいとの報告があった。

海外委員会・中村

昨秋訪れた東チベットの山の写
真を回覧。

自然保護委員会・河西

「高尾の森」通信四号を配布。

図書委員会・宮下

第三十三回山岳図書を語る夕べ
「横山厚夫さんに聞く」を、一月三
十一日(木)午後六時半より当会議室
にて開催。

■会員異動

物故

森谷昭男 (三五八二) 02・1・3
退会

小川悦代 (九五五六)

安岡重明 (一一一五二)

森田浩子 (一一八一四)

清水浩三 (一一三二四)

終身会員

西川元夫 (四八八七)

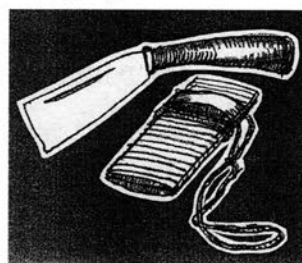
ワインを直輸入しています

主にフランスはブルゴーニュのワインを中心に輸入しています。
こだわりの無名ドメースを発掘!! 今、ワイン界に新風を送っています。
SO2の少ないピュアなおいしいワインを、毎年フランスに行き
ドメースから直接買いつけています。素晴らしいおいしさです。
ぜひお試しください。全国発送いたします。ホームページをご覧ください。
<http://www.winedou.co.jp/>
トップコンテンツのマキノレポートは山とワインのレポートです。
メールマガジンもよろしく。

マキノ酒店有限会社 牧野 菊生
(会員8299番)
千葉県印旛郡富里町日吉台5-10-7
TEL: 0476-93-2200
FAX: 0476-93-7548

●日本ソムリエ協会関東支部ワインアド
バイザーコンクール入賞 ●フランス食
品振興協会(ソベクサ)認定コンセイエ(小
売店のソムリエ) ●ワイン総合研究所
公認名譽ワインマスター

INFORMATION



イラスト・宇都木慎一

◆第三十回「山岳史懇談会」

図書委員会

名著の誉れ高い『北八ッ彷徨』が装い新たに甦ると同時に、その続編『八ヶ岳挽歌』が刊行されました。著者をお迎えして、両書の間に横たわる数十年の歲月における八ヶ岳の山と人と環境の変化について、思いを存分に語っていただきます。

日時 四月十一日(木) 十八時三十分

場所 日本山岳会集會室

講演者 山口耀久氏

◆屋久島若葉山行募集

集會委員会

一月号でお知らせした屋久島若葉山行の詳細が決まりました。最高の屋久島を満喫するためにテント泊をとりいれ、概算でお知らせした費用も航空会社との交渉で大

幅に安くすることができました。ふるってご参加ください。

日程

五月十九日(日)七時四十五分 羽田

空港集合 屋久島いわさき

ホテル泊

五月二十日(月) 白谷林道↓縄文杉

↓新高塚小屋(テント泊)

五月二十一日(火) 宮之浦岳↓永田

岳↓鹿の沢↓花山林道

屋久島いわさきホテル泊

五月二十二日(水)十六時 屋久島発

↓羽田空港 解散二十一時

三十分

費用 十一万円(含む航空運賃)

定員 二十名

申込 氏名、会員番号、住所、電話とファックス番号を明記

し郵送またはファックスで、

勝山康雄宛(〒三三四・〇

〇五七 川口市安行原一二

六二・三五 Fax〇四八・二

九四・九六四六)

◆探索山行「フォッサマグナと塩

の道を学習する」(予告)

科学委員会

日時 六月八日(土)〜九日(日)

場所 糸魚川沿い 大網峠

交通 東京より貸し切りバス

*詳細は次号に掲載します。

◆二〇〇二年自然保護全国集会

自然保護委員会

北海道支部と共催し、国際山岳

年・山岳エコツーリズム・フェス

ティバルにジョイントし、北海道

で開催します。

日程 七月十二(金)〜十四日(日)

十二日 ホテル大雪(層雲峡)集

合

十三日 大雪山登山・夜懇親会

十四日 ホテルにて集会。終了後

シンポジウム会場に移動。

会場 上川カミングホール

テーマ 山岳自然環境への私たちの

インパクトとこれからの

自然環境保全のあり方

解散 午後、自由解散

費用 二万九千円

申込 ハガキで川越尚子宛(〒一

八五・〇〇一一 国分寺市

本多三・七・三三)

*申込者には詳細案内を送ります。

◆支部創立三十周年記念事業

岐阜支部

当支部の創立三十周年記念事業

を行います。多数の会員のご参集

をお待ちしています。

記念式典・講演会・祝賀会

日時 五月十一日(土) 十四時開式

会場 高山グリーンホテル(岐阜

県高山市西之一色町)

講師 斎藤惇生氏(前会長)

記念山行

日時 五月十二日(日) 八時出発

山行 川上(かおれ)岳(二六二

八尺)

観光 宇津江四十八滝、他

費用 二万二千元(祝賀会、記念

品、宿泊、山行を含む)

申込 四月十日(水)までにハガキで

堀 義博宛(〒五〇三・〇

九八一 大垣市松町三五二・

二)

*申込者には詳細案内を送ります。

◆第四回「森の勉強会」

東海・京都・関西・岐阜各

支部、自然保護委員会共催

森の自然保護を志す者が、その

保護すべき対象を科学的に正確に

把握し、総合的な理解をもつため

の森林生態学の講義と原生林での

野外実習です。

日程 五月十一日(土)九時〜十二日

(日)十七時

場所 座学Ⅱ京都府北桑田郡美山

町中 河鹿荘

実習Ⅱ京都大学演習林周辺(通称

「芦生の森」)

十一日 森林生態学講義 由良川

流域ネットワークの紹介及

2002年上高地「さんけん」 利用案内

自然エネルギー研究、会員の親睦、新会員の交流の場としての「さんけん」は、冬季の利用も検討に入れて、今年度は新会員のニーズに応えられるような新しい企画でオープンします。

開所期間：4月29日(月)～
11月8日(金)

利用予約受付：4月1日より
利用申込：直接「さんけん」へ
TEL：0263-95-2533

*ただし5月11日までの利用予約については事務局へハガキ、またはファックス(03-3261-4441)で申し込んでください。

山岳研究所運営委員会

び美山町の茅葺き民家見学
十二日 野外実習(登山と同等な山坂があります。平坦な森ではありません)
定員 主催四支部以外に十名程度
費用 二万四千円(五月十日宿泊の場合は八千円追加)
交通 京都駅からJRバス・美山

ル ーム 日 誌

1月 会報編集委員会
7日 常務理事会 アルパインズ
8日

町営バスまたは自家用車
申込 三月末日までにファックスかハガキに会員番号、支部名、氏名、住所、電話番号を明記し、野村誠人宛(〒六五一・八〇七二 京都市西京区桂木ノ下町三八一 Fax〇七五・二五五・〇一一二)
*申込者には詳細案内を送ります。
◆第十六回懇親山行 92同期会
奥多摩の軽い山に出かけませんか。当日近くで自然保護委員会「高尾の森づくり」の記念植樹祭が開かれるので、それにも積極的に参加しましょう。
日時 四月十四日(日) 雨天決行
場所 景信山
集合 JR高尾駅北口改札午前九時
申込 四月七日(日)までに召田俊雄宛(TEL〇四八・七七二・八三四三)

31日	30日	29日	28日	25日	24日	23日	22日	21日	19日	18日	17日	16日	15日	11日	10日	9日	
キークラブ 00会	図書委員会 アルパインズ	高所登山研究委員会	自然保護委員会	トイレノート小委員会	土曜会 山の自然学研究会	青年部 98同期会	海外登山基金委員会 二火会 95同期会	図書委員会 資料委員会	燦々会	アルパインズスキークラブ	自然学研究会	インスターネット小委員会	高所登山研究委員会 ファイルムビデオ委員会 アルパインズスケッチクラブ 山の	百年史委員会 総務委員会 00会 アルパインズスケッチクラブ	集会委員会 山の自然学研究会 高尾の森委員会	学生会 資料委員会 アルパインズスキークラブ	理事会 つくも会 休山会
1月来室者 589名																	

■訂正 二月(六八二)号五ページ
三段二四、二八行、四段七行目の
パウ・パウアーはパウアーの誤
りでした。お詫びして訂正します。

◆編集後記◆

●卒業式シーズンとなりましたが、
日本山岳会の会報「山」の編集作
業の実務を丸九一年間にわたって担
当してきた奈良原町子さんが、実
務を卒業することになりました。
会報の内容・レイアウトなど、ボ
ランティアとして商業誌のレベル
まで引き上げた努力に感謝の念で
いっぱいです。本当にお疲れ様で
した。

●後任は現在見習い作業中で次号
で紹介いたしますが、なんとか会
報の内容、レベルを落とさず、発
行日に遅れずと念じて努力いたし
ます。
(今村 千秋)

日本山岳会会報 山 682号

2002年(平成14年)3月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
ホームページ: <http://www.jac.or.jp>
Eメール: jac-info@jac.or.jp

発行者 大塚博美
編集人 今村千秋
印刷 株式会社 双陽社